

曾於文藝

うたごよみ

俳句

末吉俳句会

純白の飛沫陽に映え涼運ぶ

池田 安起徒

川風と瀬音を添へて夏のカレー

児玉 典子

溪流へはらりと赤き夏落葉

本浦 玲子

大陽俳句会

寄せ植えの鶏頭ほどよく撓みをり

岩重 みどり

父の日や父の土産のチャイナ服

鍋山 美智子

境内に良き風渡る夏祓

福村 よう子

短歌

末吉短歌会

下の名に子につく世代老いてゆく
キラキラネームの増殖のなか

宝蔵 弘二

題字

末吉文化協会会員 瀬戸口 淳民氏

「まあ良いか」と片付ける事多くなり
生きゆく事はそういう事か

長倉 佳津子

友の自死運び来し午後の五月雨
熟れたるグミは言葉を隠す

森岡 ちどり

大陽短歌会

朝まだき緋色サボテン初咲きす
賜いし人に告げる時待つ

竹内 娃子

嫁に貰いし靴履きていく墓参り
逝きし人らに近況かたる

安藤 フヂ子

合歓の花淡く咲きいて湯の宿の
夕暮れの風川渡り来る

川辺 敦子

財部短歌会

さまざまな苦渋のおもひも時を経て
善きクスリと化すありがたきかな

杉村 リカ

田植え後の蛙少なき田を見つめ
畔に立ちおり二羽のシラサギ

児玉 次雄

みどり田を揺らして入りくる風やさし
ウクライナにもとだけこの風

井上 澄子

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

高齡五体 猛暑つ連日

浜田 一好

熱中症なつ

猛暑つ日は 西瓜が一番

古川 一幹

元氣なつ

こん猛暑つ 水泳びいでん

桐野 奈世

すこちやい婆

猛暑つ晩 下着一枚で

客大騒動 胡摩ケ野 べぶまつ

大陽薩摩狂句会

過疎いなつ シャツター通い
街ちや変わつ

津留 群志

大世間が ぐりつ変わった

小倉 りんりん

酷で戦争

古り家も 金ぬ掛くれば

西山 美代子

凄ぜ変わつ

可愛ゼタマと 爺を呼つ声

境 すやすや

凄ぜ変わつ